|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  | 第２章　近代化と私たち**２節　結び付く世界と日本の開国****① 18世紀の東アジア**（教科書 p.28～29） |  |

■Ｑ

18世紀の東アジアはどのような国際関係をきずいたのだろうか。

●**清の統治体制と国際関係〔p.28〕**

〔　　　　　〕の統治体制

・伝統的な〔　　　　　　　　〕（みずからを文明の中心とする考え）を意識し，
周辺諸国からの〔　　　　　　〕（貢物）を受け入れる

→朝鮮・琉球など数か国を〔　　　　　　〕（朝貢してきた国の権力者をその国の王と認める）

・日本や東南アジア島嶼部，イギリスなどヨーロッパ勢力とは商人どうしの貿易を認めた

18世紀なかばの国際関係

・キリスト教の布教禁止や治安維持の目的から，ヨーロッパ勢力との貿易の場を広州に限定

→茶や生糸の仕入れが取り引き量には達せず，産地や原価の情報も隠され，ヨーロッパ商人に不満が広がる

●**清代の経済発展とほころび〔p.28～29〕**

産業の発展

茶や生糸，綿布の産業が発展し空前の好景気

→人口過密な地域から，四川や雲南などの辺境へ移住する者，東南アジア方面へ移民する者（〔　　　　　　　　　〕）もあらわれた

産業の発展による問題点

辺境の開発による環境破壊，災害をまねきやすい，生活の困難

→社会不安

→民衆の反乱

●**日本の「鎖国」と貿易・経済〔p.29〕**

江戸時代の鎖国状況

・17世紀以来，キリスト教布教や外国人の入国，日本人の出入国を禁止

・中国・オランダとの貿易は長崎に限定

・朝鮮・琉球・アイヌとの貿易はそれぞれ対馬藩・薩摩藩・松前藩が管理

17世紀後半以後の貿易と経済

・金銀の流出を防ぐため貿易額を制限

・銅，蝦夷地産の海産物の輸出を奨励

・朝鮮人参や生糸を国内で生産する試みも本格化

→商業経済が活発化

↔︎災害の頻発，格差の拡大

鎖国の見直し

18世紀後半以降，欧米列強が日本に接近

→対外政策の見直し

memo